

[成果情報名]高温による開花期変動が起こりにくい8月咲きの小ギク新品種「春日の紅」

[要約]「ともこ」と「白山手」の交配から得た系統を露地と無加温ハウスで栽培し、開花日の差が5日以内となる選抜条件によって得られた8月咲き小ギク「春日の紅」は、高温による開花の早期化が起こりにくく、開花期の年次変動が少ない。

[キーワード]育種、旧盆、自然開花期、年次変動、高温

[担当]研究開発部、生産技術担当、花き栽培チーム

[代表連絡先]電話 0744-22-6201

[研究所名]奈良県農業総合センター

[分類]普及成果情報

---

### [背景・ねらい]

7～8月出荷の小ギク生産では近年、春～夏の温暖化傾向による開花早期化が顕著にみられ、8月旧盆向けの作型では収穫ピークが高需要期に合致せず問題となっている。そこで、高温の影響を受けにくく開花期の年次変動が小さい8月咲きの小ギク新品種を育成する。

### [成果の内容・特徴]

1. 「春日の紅」は、「ともこ」（子房親）と「白山手」（花粉親）の交配で得た系統を、慣行露地条件とそれより高温となる無加温ハウスで比較栽培し、両条件での開花日の差が5日以内となることを基準に選抜した品種である。
2. 「春日の紅」は赤紫色（RHS カラーチャート 64A）一重咲きで、花径 37mm 程度、舌状花数 20 枚程度、頭花数 28 程度で頂花の正常開花する頂点咲き花房型の小ギクである。葉の大きさは中程度で立性、茎の硬い切り花向き品種である（図1）。
3. 「春日の紅」は、奈良県橿原市での4月上～中旬定植の露地摘心栽培で、安定して8月5日前後に開花し、年次変動も小さい（図2）。
4. 月平均気温が露地よりも 1.4～1.7℃高い無加温ハウスの高温条件でも、花芽分化の開始時期および花芽の発達速度に差はみられず（図3）、平均開花日にも差がない（図2）。
5. 対照品種の「広島紅」は 10℃に比べて 15℃以上で花芽分化節位が低下し、発蕾日数が短くなる。これに対し「春日の紅」は、15℃で花芽分化節位が 10℃に比べて低下せず発蕾株率も低い、20℃以上では花芽分化節位が低下し、摘心から発蕾までの日数が短くなる（表1）。

### [普及のための参考情報]

1. 普及対象：奈良県西南暖地の小ギク生産者組織。
2. 普及地域：2013年作では奈良県内で49戸が導入している。
3. 「春日の紅」は、生育初期に低温が続くと開花期が遅くなる場合がある。
4. 奈良県と生産者組織との許諾契約により、県外での営利栽培も可能である。

[具体的データ]



切り花長(cm)	83.4 ± 0.6
切り花重(g)	57.6 ± 2.0
節数(節)	42.3 ± 0.4
頭花数(輪)	27.8 ± 1.1
舌状花表面の色	64A(RHS)

注)2013年4月6日定植、4月18日摘心  
露地ベッド栽培

図1 「春日の紅」の切り花特性

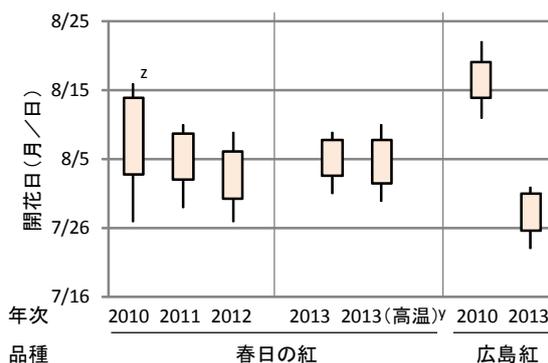


図2 「春日の紅」の開花日における年次間変動

z) 図中の陽線および陰線は、平均開花日±標準偏差および開花始～開花終を示す。  
y) 2013年(高温)区以外は露地条件で、高温区は無加温ハウスでの栽培。気温は図3の脚注y)を参照。

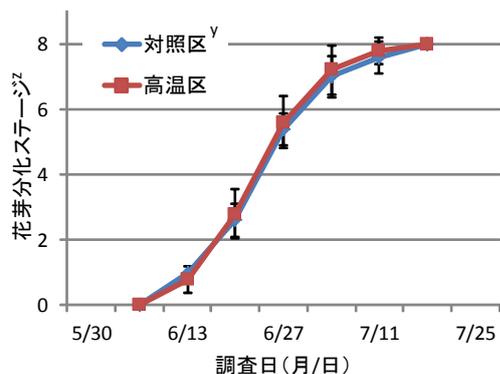


図3 栽培温度が「春日の紅」の花芽分化と発達に及ぼす影響(2013年)

z) 花芽分化ステージは岡田(1963)によって区分し、以下のとおり指数化して集計した。(n=5、エラーバーは標準偏差)  
0: 未分化、1: 生長点膨大期、2: 総包形成前期、3: 総包形成後期、4: 小花形成前期、5: 小花形成後期、6: 花弁形成前期、7: 花弁形成中期、8: 花弁形成後期  
y) 対照区と高温区は、露地と無加温ハウスでの栽培とした。各区の期間平均気温は以下のとおり。  
露地区 4月: 11.5℃ 5月: 17.5℃ 6月: 22.4℃ 7月: 26.6℃  
高温区 4月: 13.2℃ 5月: 19.1℃ 6月: 23.9℃ 7月: 28.0℃

表1 栽培温度が「春日の紅」の摘心から発蕾までの日数、発蕾から開花までの日数および花芽分化節数に及ぼす影響(2012年)

品種	栽培温度 <sup>z</sup>	摘心から発蕾までの日数 (発蕾株率) <sup>y</sup>	発蕾から開花までの日数 (開花株率)	花芽 <sup>x</sup> 分化節数
春日の紅	10℃	150< ( 0%)	— ( 0%)	(49)
	15℃	128 ( 75%)	26 ( 33%)	54
	20℃	91 (100%)	24 (100%)	44
	25℃	73 (100%)	22 (100%)	40
広島紅 (対照)	10℃	150< ( 0%)	— ( 0%)	(46)
	15℃	80 (100%)	31 ( 89%)	37
	20℃	46 (100%)	30 (100%)	25
	25℃	40 (100%)	30 (100%)	25

z) 栽培温度は人工気象器内で昼夜一定とし、3号鉢で栽培した。  
y) 発蕾株率と開花株率は、摘心後150日目の試験打ち切りまで調査。  
x) 花芽分化節数は、未発蕾の場合は150日目に検鏡により確認した。10℃区では「広島紅」の78%と「春日の紅」のすべてが未分化であったため検鏡で確認された全節数を( )書きで記した(n=8~12)。

(辻本直樹・仲 照史)

[その他]

研究課題名：需要開拓と安定生産を可能とするキク新品種の育成

予算区分：県単

研究期間：2007～2013年度

研究担当者：辻本直樹、仲 照史、廣岡健司、有馬 毅、角川由加、小山裕三、虎太有里

発表論文等：廣岡ら「春日の紅」品種登録 2013年3月6日(第22340号)